

九州運輸局メールマガジン 平成23年12月22日 第151号
～九州の明日を拓く運輸と観光～
九州運輸局HPアドレス <http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/>

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。

目次

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報（12月15日～12月21日掲載分）
 - 各種情報
 - 各種手続
 - 報道発表
 - お知らせ
- 2 現場レポート
- 3 九州運輸局十大ニュース

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報（12月15日～12月21日掲載分）

各種情報

《九州のうんゆ》

- ・「九州のうんゆ」(2011年9月号)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kyushuunyu/pdf/23_09.pdf

《入札・契約情報》

- ・企画競争実施予定情報（12/15公表分）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_111215.pdf

各種手続

- ・海技試験制度について（平成24年2月定期試験口述試験日程）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kaigisiken/body.htm>

報道発表

- ・南海地震等の想定地域における民間の施設・ノウハウを活用した災害に強い物流システムの構築に関する協議会の開催について

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-1215-buturyuu.pdf>

- ・タイで人気のテレビ番組で九州の観光地をPRします！

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-1215-kokusai.pdf>

お知らせ

- ・能力認定試験公示

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/kaigisikaku_2312.pdf

- ・九州運輸局ホームページの閲覧停止について

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2011-1220-soumu.htm

2 現場レポート

「新たな可能性を求めて」
佐世保市において海上自衛官を対象とした内航海運合同企業説明会の開催！！

四面を海に囲まれている我が国にとって、海上輸送は国民生活の安定のために大変重要な輸送手段です。九州運輸局では、海上輸送に重要な役割を果たしている船員を対象とした行政につきましても所掌しています。

さて、我が国の船員数は、ピーク時の昭和49年には約27.8万人でしたが、平成22年10月には約6.9万人となっており、外航船員、内航船員、漁業船員といずれの船員数も減少しています。また、船員の年齢構成は、45歳以上の中高年齢者の占める割合が高く（平成22年52.6%）、特に55歳以上の高年齢者の占める割合が平成12年11.7%から平成22年29.0%に増加し、高齢化が進んでいます。

こういった状況の中、船員の確保・育成対策の一つとして、去る12月9日に長崎県佐世保市の海上自衛隊佐世保地方総監部におきまして、退職後の再就職先として船員を希望している海上自衛隊員を対象とした「内航海運合同企業説明会」が開催されました。

この説明会では、まず最近の雇用情勢や海技資格制度等に関して説明する「セミナー」の後、海運（旅客船、貨物船）事業者と海上自衛官とが質問や説明を行う「説明会」とがセットとなって行われました。

九州運輸局としましては、セミナーでの講師の後、説明会の時間帯には就職相談ブースを設置し、関係する手続き等の案内や説明を行いました。

参加した約50名の自衛官の中には、内航海運業界の仕組みや船内での生活、組織、労働状況等を初めて耳にする方も多く、現在の船内環境とは違う点など、より具体的な説明を受けながら、海運業界をグッと身近に感じていただく良い機会となりました。

また、参加いただいた事業者の方は、自社PRを積極的に行われ、自衛官の経験や海技資格などを踏まえながら船員確保に向けての強い意欲が感じられました。

今後も当事務所では、船員を希望する方に対するきめ細やかな就職紹介等を行うとともに、雇用の開拓や拡大に努めてまいります。

説明会の模様は、次のURLからご覧下さい。
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_151_2.pdf

（長崎運輸支局 佐世保海事事務所）

震災後の日本を歩いて縦断し、ブログで「日本の魅力と安全性」を情報発信しているトーマス・クーラーさんの九州入りを歓迎しました

トーマス・クーラーさんはスイスの大手旅行会社で日本担当をしていますが、東日本大震災と原発事故により、外国人旅行者が激減していることを憂慮し、少しでも日本の力になりたいと、会社を退職され、自費で8月に北海道から徒歩での日本縦断を開始されました。

観光庁では、トーマスさんの行動が日本の安全性を情報発信することで風評被害の防止にもなることから、各運輸局経由で各県、各県観光連盟などの観光関連機関に情報を提供し、支援を呼びかけました。

沿線各地では、温かいもてなしやイベントへの参加など支援の輪が広がるとともに、トーマスさんのブログによる情報発信で、海外からの取材も実現するなど、様々な反響を呼んでいます。

九州でも、福岡運輸支局門司港庁舎の職員と北九州市の観光担当の職員により、12月5日に関門トンネル人道内で、トーマスさんの九州入りを歓迎しました。

<<<以下、福岡運輸支局による出迎えの様様 >>>

当日は、私たち福岡運輸支局と北九州市の職員が、関門トンネル人道の山口・福岡両県の境界線でその到着を待っていました。

「今日は天気も良く、歩きやすいだろうな」と思っていたその時、本州側から菅笠を被ったトーマスさんが九州側に向かって歩いて来るのを確認、早速「Y koso Japan & Welcome to Kyushu !!」の横断幕を広げ、歓迎体制を整えました。そしてついにトーマスさんは、歓迎の拍手が湧き上がる中で、県境を越え九州入りを果たされたのです。

手を挙げて応えてくれたトーマスさんは、大きな存在感を示しながらも、穏やかな笑みを絶やさず、私たちの歓迎を心から喜んでおられる様子で、私たち自身も嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

流暢な日本語でのプレス対応も終わり、全員で門司港側出入口まで歩きましたが、体調も足の具合も良いとのこととても安心しました。

お別れの際、トーマスさんは私たちに改めて感謝の意を表され、しっかりとした足取りで小倉方面に向かって出発されました。

私たちもトーマスさんが無事に日本縦断を達成されることを祈りつつ手を振って見送りました。頭上の関門橋も「トーマスさん、有難う。体に気をつけて良い旅を続けて下さい。」と応援しているようでした。

.....
本件は、トーマスさんがたった一人で始めたイベントですが、ブログの記事でもわかるとおり、観光というものは、まさに人と人とのふれあいであることを改めて教えられ、ブログという手軽な情報発信手段でも、小さな一滴を大きな河にしていく効果があるということを実感することになりました。

なお、トーマスさんは12月中に鹿児島島にゴールすることを目指しており、今回の偉業達成に向けて、沿線自治体や住民の皆様の声援をよろしくお願いいたします。

(トーマスさんのブログ)

<http://www.japanfenster.ch/japantrip/ja/>

トーマスさんの九州入りに伴う出迎えの様子は、次のURLからご覧いただけます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_151_3.pdf

(企画観光部 国際観光課)
(福岡運輸支局 門司港庁舎)
(協力)北九州市

まちあるきセミナー ~ぶらりさつま体験ツーリズム~ 開催

12月1日(木)~2日(金) 鹿児島県薩摩郡さつま町において、「まちあるき観光セミナー ~ぶらりさつま体験ツーリズム~」を開催しました。

これまで九州運輸局では、観光を担う人材育成のための取組として、「観光カリスマ塾」を開催していましたが、今回の観光セミナーは、観光地域づくりに取り組もうとしている人材への着地型観光の概念の普及・啓発及び地域資源を活かした着地型旅行商品づくりの意義の啓発を目的として開催するものです。

会場のさつま町は、緑豊かな自然を抱えたのどかな農村地帯で、十数戸の農家による体験型民泊が盛んなところです。農家民泊も含めた今回のセミナーには、九州各地から地方自治体や観光団体関係者等28名の受講生が参加しました。

和気さつま副町長のご挨拶のあと、薩摩半島を中心に民泊型修学旅行に取り組むNPO法人エコ・リンク・アソシエーション代表理事 下津公一郎氏より「体験型の観光地づくり」と題して、中高生に対する体験型教育旅行の取組や地域を越えた受入体制の必要性について講演をいただきました。

次に、九州各地で観光ボランティアガイドとして活躍されているNPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会代表理事 東川隆太郎氏の講演では、座学や会場周辺を実際にまちあるきしながら、名所や旧跡だけでなく、民家の石垣や無名の神社などのまちにありふれたものでも、見方を変えれば魅力ある観光商品になり得ることを教わりました。

まちあるきのあと、初日最後の講演として、人吉球磨において郷土料理伝承塾を主宰している農村レストランひまわり亭代表の本田節氏より「スローフードと町おこし」と題して、食を活かした地域の情報発信を通じて、女性や高齢者も地域活動に参加しながら働いきがいをもちながら、地域活性化につながるお話がありました。

セミナー二日目のワークショップでは、まちあるきで見聞きした題材をもとにして、各班でさつま町の着地型観光商品を考えました。各班、慣れない作業に四苦

八苦しながらも、講義で教わった「世界遺産」ならぬ「世間遺産」を見事に商品化したプレゼンテーションを行い、さつま町の観光担当の方からも今後の参考にしたいとの感謝の言葉をいただきました。

受講生からは、交流会や農家民泊も含めた二日間は、有意義なセミナーだったとの感想をいただきました。本セミナーを通じて住んでいる地域をもう一度違った角度から見直し、特色ある観光商品づくりを考えるきっかけになることを期待しています。

本セミナーの様子は、次のURLからご覧いただけます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_151_4.pdf

(企画観光部 観光地域振興課)

3 九州運輸局十大ニュース

九州運輸局では、今年1年の締めくくりとして12月12日～16日にかけて全職員を対象にアンケートを実施し、「九州運輸局十大ニュース」を次のとおり決定しました。

【第1位】JR九州「九州新幹線(鹿児島ルート)」全線開業

【第2位】東北地方太平洋沖地震による津波警報により「九州運輸局災害対策本部」を設置

【第3位】東日本大震災に係る宮城運輸支局への業務支援第1次の開始
(第2次6月から第3次9月まで実施)

【第4位】霧島山新燃岳噴火警戒「レベル3」に引上げのため注意体制を発令
(現在継続中)

【第5位】天竜川における川下り船の転覆事故に伴う川下り船の安全指導実施

【第6位】HTBクルーズ(株)が、外航不定期航路(長崎～上海航路)において「オーシャンローズ」の試験運航を実施

【第7位】自動車運送事業者の点呼における運転者の酒気帯びの確認のためのアルコール検知器使用の義務化の実施

【第8位】宮崎市で疑似患畜発生に対応のため「九州運輸局鳥インフルエンザ対策本部」を設置

【第9位】海・陸・空の総合支援制度として「地域公共交通確保維持事業」がスタート

【第10位】九州運輸局管内の関係団体に夏期の節電要請(7月～9月)

(次点)九州運輸局長が九州地方知事会等とともに中国での観光プロモーションを実施

【編集部より】

本号が今年最後のメールマガジンとなりました。

今年1年大変お世話になりました。

編集部では、来年も充実した誌面作りに努めてまいりたいと思いますので、来年もよろしく願いいたします。

なお、新年は1月4日及び5日に亘って、九州運輸局長をはじめ幹部の年頭の辞を掲載した号外を配信する予定です。

九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

九州運輸局メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html